

第48回未来医療セミナー

細胞移植による関節軟骨再生 —骨髄間葉系細胞移植を中心に—

大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科 准教授
脇谷 滋之

細胞移植による関節軟骨再生は、最も早くから臨床応用されてきたものの一つである。自己軟骨細胞移植は、1989年に家兎の実験系で報告され、1997年FDAが認可した整形外科分野で世界初の産業化組織再生工学的方法であり、これまでに世界中で2万例以上に施行された。しかしながらその有用性については現在でも論争中である。我々は、当初、同種軟骨細胞移植に挑戦したが我が国では細胞採取が困難であるために断念した。その後、自己骨髄間葉系細胞移植の研究を開始し、1998年、世界に先駆けて臨床応用したが、産業化は未だにされていない。本講演では、我々の成績を報告するとともに、産業化のための取り組みについて紹介する。



2009.09.09
18:00-19:00

大阪大学医学部附属病院外来棟 4F
第1カンファレンス室

主催:大阪大学「未来医療交流会」
後援:文部科学省橋渡し研究支援推進プログラム
大阪大学「TR 実践のための戦略的高機能拠点整備」

連絡先:未来医療交流会(大阪大学医学部附属病院未来医療センター内)
Tel: 06-6879-6557, 6551, Fax:06-6879-6538
E-mail: koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

